

(別表1) 初期環境調査における検出状況(過去の調査結果を含む)

単位 水質:ng/L、大気:ng/m³

物質調査番号	調査対象物質	媒体	実施年度	検出頻度		検出範囲	検出下限値
				検体	地点		
[1]	アトルバスタチン ※	水質	2022	14/34	14/34	nd~18	1.4
[2]	2-(ジエチルアミノ)エタノール ※	大気	2022	0/66	0/22	nd	40
[3]	ジエチルアミン	水質	1981	0/27	0/9	nd	600~4,000
			2022	6/28	6/28	nd~19,000	50
[4]	4,4'-ジヒドロキシジフェニルメタン (別名:ビスフェノールF)	水質	2022	0/32	0/32	nd	8.8
[5]	1,3-ジフェニルグアニジン	水質	1978	0/42	0/14	nd	2,000~50,000
			2022	19/29	19/29	nd~220	5.0
[6]	4,4'-スルホニルジフェノール (別名: ビスフェノールS)	水質	2022	25/32	25/32	nd~420	1.4
[7]	2,5,8,11-テトラオキサドデカン (別 名:トリエチレングリコールジメチルエ ーテル)	水質	2022	0/35	0/35	nd	620
[8]	1,3,5-トリス(2,3-エポキシプロピ ル)-1,3,5-トリアジン-2,4,6(1 <i>H</i> ,3 <i>H</i> ,5 <i>H</i>)- トリオン (別名:1,3,5-トリスグリシ ル-イソシアヌル酸) ※	水質	2022	2/23	2/23	nd~27	14
[9]	4,4'-[2,2,2-トリフルオロ-1-(トリフル オロメチル)エチリデン]ビスフェノール (別名:ビスフェノールAF)	水質	2022	5/32	5/32	nd~10	0.38
[10]	3,5,5-トリメチル-1-ヘキサノール ※	水質	2022	0/28	0/28	nd	420
[11]	1,2-ビス(2-クロロフェニル)ヒドラジン	水質	2022	0/25	0/25	nd	1.8
[12]	フラン	水質	2022	0/31	0/31	nd	38
[13]	2-メルカプトベンゾチアゾール (別 名:1,3-ベンゾチアゾール-2-チオー ル)	水質	1977	3/12	3/6	nd~21	11~100
			1978	0/111	0/37	nd	10~24,000
			2022	0/24	0/24	nd	4.1

(注 1) ※を付した調査対象物質は、調査地点に排出に関する情報を考慮した調査地点を含むことを意味する。

(注 2) 表中の「nd」とは、検出下限未満であったことを意味する。

(注 3) 1,3-ジフェニルグアニジンの 1978 年度に検出された検体については検出下限値の記録が残されていないため、検出濃度の最小値を記載した。

(別表2) 詳細環境調査における検出状況(過去の調査結果を含む)

単位 水質:ng/L、底質:ng/g-dry

物質調査番号	調査対象物質	媒体	実施年度	検出頻度		検出範囲	検出下限値
				検体	地点		
[1]	アルコール類(アルキル基が直鎖で炭素数が10から16までのもの) ※						
	[1-1] 1-デカノール	水質	1979	0/27	0/9	nd	5,000~50,000
			2017	2/26	2/26	nd~13	6.2
			2022	1/42	1/42	nd~10	6.3
	[1-2] 1-ウンデカノール	水質	2022	0/43	0/43	nd	4.3
	[1-3] 1-ドデカノール	水質	2022	24/43	24/43	nd~480	4.8
	[1-4] 1-トリデカノール	水質	1977	0/6	0/2	nd	300,000
			2022	2/43	2/43	nd~16	4.0
[1-5] 1-テトラデカノール	水質	2022	30/43	30/43	nd~22	1.4	
[1-6] 1-ペンタデカノール	水質	2022	2/43	2/43	nd~30	3.1	
[1-7] 1-ヘキサデカノール	水質	2022	26/43	26/43	nd~1,100	3.0	
[2]	アルキル(ベンジル)(ジメチル)アンモニウムの塩類(アルキル基の炭素数が12、14又は16のもの) ※	水質	1982	0/24	0/8	nd	3,000
			1983	0/126	0/42	nd	1,000~3,000
			2022	43/43	43/43	2.5~310	1.6
	[2-1] ドデシル(ベンジル)(ジメチル)アンモニウムの塩類	水質	2022	43/43	43/43	1.7~180	0.72
	[2-2] テトラデシル(ベンジル)(ジメチル)アンモニウムの塩類	水質	2022	43/43	43/43	0.80~84	0.47
[2-3] ヘキサデシル(ベンジル)(ジメチル)アンモニウムの塩類	水質	2022	38/43	38/43	nd~41	0.41	
[3]	ジ(オキシエチレン)ドデシルエーテル硫酸エステル及びその塩類	水質	2022	25/25	25/25	1.7~24	0.56
[4]	<i>N,N</i> -ジメチルアルカン-1-アミン=オキシド類(アルキル基の炭素数が10、12、14、16又は18で、直鎖型のもの) ※						
	[4-1] <i>N,N</i> -ジメチルデカン-1-アミン= <i>N</i> -オキシド	水質	2019	8/30	8/30	nd~370	3.0
			2022	7/48	7/48	nd~15,000	6.4
		底質	2022	0/84	0/28	nd	1.5
			[4-2] <i>N,N</i> -ジメチルドデカン-1-アミン= <i>N</i> -オキシド	水質	2019	19/30	19/30
	2022	34/48	34/48		nd~1,800	26	
		底質	2015	66/69	23/23	nd~3.5	0.014
			2022	52/84	23/28	nd~12	2.0
	[4-3] <i>N,N</i> -ジメチルテトラデカン-1-アミン= <i>N</i> -オキシド	水質	2019	10/30	10/30	nd~72	6.2
			2022	28/48	28/48	nd~61	11
		底質	2022	15/84	7/28	nd~3.8	1.4
			[4-4] <i>N,N</i> -ジメチルヘキサデカン-1-アミン= <i>N</i> -オキシド	水質	2022	26/48	26/48
		底質	2022		1/84	1/28	nd~2.3
[4-5] <i>N,N</i> -ジメチルオクタデカン-1-アミン= <i>N</i> -オキシド			水質	2019	0/30	0/30	nd
	2022	1/48		1/48	nd~4.9	4.3	
	底質	2022	3/84	1/28	nd~3.8	2.8	

物質 調査 番号	調査対象物質	媒体	実施 年度	検出頻度		検出範囲	検出下限値
				検体	地点		
[5]	トリメチル(オクタデシル)アンモニウムの塩類 ※	底質	2022	81/81	27/27	2.6~2,500	0.14
[6]	4,4'-(プロパン-2,2-ジイル)ジフェノール (別名: 4,4'-イソプロピリデンジフェノール又はビスフェノール A) ※	水質	1976	0/60	0/12	nd	50~100
			1996	41/148	18/50	nd~268	10
			2005	26/30	9/10	nd~1,000	2.4
			2014	18/20	18/20	nd~280	1.7
			2022	28/32	28/32	nd~95	1.8

(注 1) ※を付した調査対象物質は、調査地点に排出に関する情報を考慮した調査地点を含むことを意味する。

(注 2) 表中の「nd」とは、検出下限未満であったことを意味する。

(注 3) *N,N*-ジメチルドデカン-1-アミン=*N*-オキシドの 2015 年度以前に実施した調査について、試料を採取してから分析するまでの分解により、実環境中の濃度より低い値として定量された恐れのある水質の 2004 年度及び 2015 年度の全検体並びに底質の 2006 年度の全検体及び 2015 年度の 1 地点 3 検体を遡って欠測とした。

(注 4) *N,N*-ジメチルドデカン-1-アミン=*N*-オキシドの底質における測定値は、底質の酸化還元状態に影響を受けるが、本調査結果は酸化還元状態の把握が困難な中で得られた値であることから、年度間で比較する際には十分な留意が必要である。

(注 5) アルキル(ベンジル)(ジメチル)アンモニウム及びその塩類(アルキル基の炭素数が 12、14 又は 16 のもの)及びトリメチル(オクタデシル)アンモニウムの塩類の濃度は、検出された物質が全て塩化物であるとして換算した値である。

(別表3-1)モニタリング調査における検出状況(水質・底質)

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
		範囲 検出頻度	平均値	範囲 検出頻度	平均値
[1]	総 PCB	nd~3,900 (46/48)	110	20~340,000 (61/61)	4,600
[2]	HCB	1.6~70 (48/48)	5.3	1.6~4,800 (61/61)	42
[11]	HCH 類				
	[11-1] α -HCH	1.9~430 (48/48)	24	1.2~2,800 (61/61)	67
	[11-2] β -HCH	9.5~540 (48/48)	76	2.2~2,900 (61/61)	120
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	tr(0.6)~120 (48/48)	9.3	tr(0.7)~2,100 (61/61)	23
	[11-4] δ -HCH	nd~90 (41/48)	3.6	tr(0.6)~2,300 (61/61)	21
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が4から10までのもの)				
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	tr(2)~140 (48/48)	tr(4)	nd~1,800 (52/61)	6.9
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	nd~31 (40/48)	tr(1.7)	nd~850 (45/61)	5
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	nd~10 (5/48)	nd	nd~420 (46/61)	10
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	nd~tr(6) (1/48)	nd	nd~940 (39/61)	10
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	nd~26 (17/48)	tr(0.9)	nd~1,600 (45/61)	31
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	nd~670 (25/48)	tr(8)	nd~43,000 (56/61)	340
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	tr(7)~5,600 (48/48)	89	tr(17)~410,000 (61/61)	3,300
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	nd~3,600 (46/48)	270	tr(5)~710 (61/61)	55
[16]	ペルフルオロオクタナ酸(PFOA)	170~14,000 (48/48)	1,100	tr(5)~370 (61/61)	29
[17]	ペンタクロロベンゼン	0.9~51 (48/48)	4.5	tr(0.5)~1,300 (61/61)	24
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類				
	[19-1] α -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/48)	nd	nd~9,600 (41/61)	230
	[19-2] β -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/48)	nd	nd~4,000 (30/61)	tr(70)
	[19-3] γ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/48)	nd	nd~33,000 (41/61)	170
	[19-4] δ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/48)	nd	nd~tr(70) (1/61)	nd
	[19-5] ϵ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/48)	nd	nd (0/61)	nd
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン	nd (0/48)	nd	nd~370 (4/61)	nd
[23]	短鎖塩素化パラフィン類				
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~1,100 (47/48)	tr(200)	nd~6,500 (48/61)	300
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	nd~2,200 (37/48)	tr(400)	nd~16,000 (57/61)	700
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd~2,400 (17/48)	nd	nd~19,000 (53/61)	900
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd~3,900 (47/48)	tr(400)	nd~28,000 (54/61)	1,200
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)	nd~1,800 (42/48)	130	nd~16 (28/61)	tr(3)

(注1)「平均値」は幾何平均値を意味する。nd(検出下限値未満)は検出下限値の1/2として算出した。

(注2) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注3) 短鎖塩素化パラフィン類は塩素数が5から9までのものを測定の対象とした。

また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

(別表3-2)モニタリング調査における検出状況(生物・大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物(pg/g-wet)						大気(pg/m ³)	
		貝類		魚類		鳥類		温暖期	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[1]	総 PCB	230~10,000 (3/3)	1,000	600~150,000 (18/18)	9,200	190,000~ 200,000 (2/2)	190,000	18~190 (36/36)	78
[2]	HCB	7.6~9.1 (3/3)	8.4	16~710 (18/18)	110	1,800~2,300 (2/2)	2,000	71~140 (36/36)	100
[11]	HCH 類								
	[11-1] α-HCH	2.5~16 (3/3)	7.4	nd~82 (17/18)	8.7	35~63 (2/2)	47	2.9~100 (34/34)	14
	[11-2] β-HCH	10~35 (3/3)	18	2.2~230 (18/18)	32	970~1,300 (2/2)	1,100	0.23~14 (34/34)	1.8
	[11-3] γ-HCH(別名:リン デン)	tr(1.0)~8.4 (3/3)	3.5	nd~24 (17/18)	3.0	1.8~6.6 (2/2)	3.4	0.63~22 (34/34)	5.0
	[11-4] δ-HCH	nd~3.0 (2/3)	tr(0.7)	nd~5.5 (13/18)	1.0	1.2~2.1 (2/2)	1.6	nd~12 (32/34)	0.57
[14]	ポリブロモジフェニルエー テル類(臭素数が4から10 までのもの)								
	[14-1] テトラブロモジフェ ニルエーテル類	tr(6)~94 (3/3)	16	tr(6)~230 (18/18)	38	180~250 (2/2)	210	nd~1.1 (20/36)	tr(0.2)
	[14-2] ペンタブロモジフェ ニルエーテル類	nd~26 (2/3)	4	nd~82 (17/18)	15	200~260 (2/2)	230	nd~0.31 (13/36)	nd
	[14-3] ヘキサブロモジフ ェニルエーテル類	nd~5 (1/3)	tr(2)	nd~96 (17/18)	20	240~480 (2/2)	340	nd~0.6 (1/36)	nd
	[14-4] ヘプタブロモジフェ ニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd~tr(8) (4/18)	nd	49~96 (2/2)	69	nd~1.0 (1/36)	nd
	[14-5] オクタブロモジフェ ニルエーテル類	nd~tr(1) (1/3)	nd	nd~29 (13/18)	3	150~180 (2/2)	160	nd~0.4 (12/36)	nd
	[14-6] ノナブロモジフェ ニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd~10 (1/2)	tr(4)	nd~1.0 (15/36)	nd
	[14-7] デカブロモジフェ ニルエーテル	nd~15 (1/3)	tr(5)	nd~tr(7) (1/18)	nd	nd~tr(9) (1/2)	tr(5)	nd~16 (33/36)	2.0
[15]	ペルフルオロオクタンスル ホン酸(PFOS)	9~160 (3/3)	27	9~7,200 (18/18)	280	5,200~ 100,000 (2/2)	23,000	2.4~17 (36/36)	9.2
[16]	ペルフルオロオクタン酸 (PFOA)	tr(5)~35 (3/3)	16	nd~47 (17/18)	11	470~2,600 (2/2)	1,100	8.2~53 (36/36)	22
[17]	ペンタクロロベンゼン	1.9~9.8 (3/3)	4.4	3.6~78 (18/18)	18	260~330 (2/2)	290	30~130 (36/36)	60
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサプロモ シクロドデカン類								
	[19-1] α-1,2,5,6,9,10-ヘキ サブロモシクロドデカン	80~250 (3/3)	150	nd~450 (14/18)	70	460~750 (2/2)	590	nd~19 (35/36)	0.29
	[19-2] β-1,2,5,6,9,10-ヘキ サブロモシクロドデカン	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd~4.1 (19/36)	tr(0.07)
	[19-3] γ-1,2,5,6,9,10-ヘキ サブロモシクロドデカン	nd~tr(30) (2/3)	tr(20)	nd~tr(30) (8/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd~3.1 (32/36)	0.17
	[19-4] δ-1,2,5,6,9,10-ヘキ サブロモシクロドデカン	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd		
	[19-5] ε-1,2,5,6,9,10-ヘキ サブロモシクロドデカン	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd		
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエ ン	nd (0/3)	nd	nd~290 (9/18)	tr(6)	nd (0/2)	nd	1,700~5,000 (108/108)	2,400
[23]	短鎖塩素化パラフィン類								
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~tr(300) (1/3)	nd	nd~tr(400) (6/18)	nd	nd~tr(200) (1/2)	nd	tr(40)~490 (36/36)	120
	[23-2] 塩素化ウンデカン 類	nd~tr(500) (1/3)	nd	nd~tr(700) (7/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd~2,400 (22/36)	tr(130)
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd~900 (2/3)	tr(300)	nd~tr(800) (13/18)	tr(300)	nd~tr(500) (1/2)	tr(300)	nd~430 (11/36)	nd
	[23-4] 塩素化トリデカン 類	nd~1,000 (2/3)	tr(500)	nd~tr(700) (7/18)	nd	nd~900 (1/2)	tr(400)	nd~tr(190) (3/36)	nd
[25]	ペルフルオロヘキサンス ルホン酸(PFHxS)	nd (0/3)	nd	nd~20 (10/18)	tr(4)	250~630 (2/2)	400	0.79~7.0 (36/36)	3.1

- (注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd(検出下限値未満)は検出下限値の1/2として算出した。
- (注2) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。
- (注3) ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの大气については、他の物質とは異なる方法で試料を採取しており、3検体/地点の測定を行っている。範囲は全ての検体における最小値から最大値の範囲で示し、検出頻度は全測定地点に対して検出のあった地点数で示した。
- (注4) 短鎖塩素化パラフィン類のうち、生物においては塩素数が5から9までのものを測定の対象とし、大气において塩素は塩素数が4から8までのものを測定の対象とした。
また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。
- (注5) は調査対象外であることを意味する。

(別表3-3)2002年度から2022年度における経年分析結果(水質)

物質調査番号	調査対象物質	水質			
		河川域	湖沼域	河口域	海域
[1]	総 PCB	↘	↘	↘	—
[2]	HCB	↘	↘	↘	↘
[11]	HCH 類				
	[11-1] α-HCH	↘	↘	—	↘
	[11-2] β-HCH	↘	↘	↘	↘
	[11-3] γ-HCH(別名:リンデン)	↘	↘	↘	↘
	[11-4] δ-HCH	↘	↘	—	—*
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が4から10までのもの)				
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	↘	↘	—**	↘
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	↘	↘	—**	↘
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	—**	↘	—**	↘
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	—**	↘	—**	↘
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	↘	—**	—**	—**
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	—*	—*	—**	—**
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	—*	—*	—**	—**
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↘	—	↘	↘
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↘	↘	↘	—
[17]	ペンタクロロベンゼン	↘	↘	—	—

(注1) 経年分析は、単回帰分析等の統計的手法を用いて実施した。手法の詳細は、中央環境審議会環境保健部会 化学物質評価専門委員会(第29回)資料 2-2 の 201~203 ページ及び 453 ページ~456 ページを参照(以下の表においても同様)。

(注2) 表中で用いた記号はそれぞれ次の内容を意味する(以下の表においても同様)。

- ↘ : 経年的な濃度の減少傾向が統計的に有意と判定されたもの
- ↘ : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値であることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- ↘ : 検出率が経年的に減少していることが統計的に有意と判定され、濃度の減少傾向が示唆されたもの
- : 経年的な濃度の減少傾向(又は増加傾向)が統計的に有意であるとは判定されないもの
- * : 調査期間の後期で得られた結果が前期と比べ低値(又は高値)であることが統計的に有意であるとは判定されないもの
- ** : 検出率が経年的に減少している(又は増加している)ことが統計的に有意であるとは判定されないもの

(注3) ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-4) 2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(底質)

物質 調査 番号	調査対象物質	底質				
		河川域	湖沼域	河口域	海域	
[1]	総 PCB	↓	↓	—	↓	↓
[2]	HCB	↓	↓	—	—	↓
[11]	HCH 類					
	[11-1] α -HCH	↓	↓	—	↓	↓
	[11-2] β -HCH	↓	—	—	↓	—
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	↓	↓	—	—	↓
	[11-4] δ -HCH	↓	—	—	↓	↓
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が 4 から 10 までのもの)					
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—*	—
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—*	—	—*
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	—*	↓	—	—	—
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	—	—*	—	—	—
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	—	—	—	—	—
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	↓	—	—	↓	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	↓	—	—	↓	—
[17]	ペンタクロロベンゼン	↓	—	—	—	↓

(注)ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(別表3-5)2002 年度から 2022 年度における経年分析結果(生物及び大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物		大気
		貝類	魚類	温暖期
[1]	総 PCB	↓	↓	↓
[2]	HCB	—	—	—
[11]	HCH 類			
	[11-1] α -HCH	↓	↓	↓
	[11-2] β -HCH	—	↓	↓
	[11-3] γ -HCH(別名:リンデン)	↓	┘	↓
	[11-4] δ -HCH	— **	— **	↓
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数 が 4 から 10 までのもの)			
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	↓	↓	↓
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	— **	— **	↓
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	— **	— **	↓
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	— **	↓	↓
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	— **	↓	↓
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	— **	—	↓
[16]	ペルフルオロオクタン酸(PFOA)	— **	↓	↓
[17]	ペンタクロロベンゼン	↓	— *	—
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロデカン類			
	[19-1] α -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
	[19-2] β -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
	[19-3] γ -1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロ デカン	↓	↓	↓
[21]	ヘキサクロロプタ-1,3-ジエン			—

(注1) 鳥類の 2013 年度以降における結果は、調査地点及び調査対象生物を変更したことから、2012 年度までの結果と継続性がないため統計的な分析の対象外とした。

(注2) 生物のうち、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)は 2009 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果それぞれ記載している。

(注3) 大気のうち、総 PCB、HCB 及び DDT 類は 2003 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタン酸(PFOA)及びは 2010 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果を、ペンタクロロベンゼンは 2007 年度以降の調査結果に基づく経年分析の結果をそれぞれ記載している。

(注4) ■は調査を実施した年度が少ないことから、経年分析を行っていない。